

だょ～ん Dayon通信

2017年6月20日(Tue)

第5号

1年前の7月11日に私は青年海外協力隊員としてフィリピンに派遣されました。まもなく、それから1年が経ちます。正直、最初はこの土地で2年近くも暮らせしていけるのか、不安しかありませんでしたが、この町の空気や時間の流れに今は完全に身を任せています。もう既に折り返し地点。少しずつ自分の言葉で農家さんともコミュニケーションを取れるようになってきたので、これからも農家さんたちの笑顔をパワーに頑張っていきます^^

【 NGOバザーでの販売 】

農家さんたちはなかなか外の世界に目を向けない。それは今の生活に満足していると共に、それ以上の情報が彼らには入ってこないから。「カカオ育てるのはいいけど、どうやって売るつもり？」その明確な答えが彼らにはありませんでした。なので、マーケット調査や開拓も大切だと感じ、マニラで行われたNGOバザーで、マタグ・オブ町のカカオを紹介しつつ、任地のカカオ豆で作ったカカオ加工品(cacao nibsの周りを砂糖でコーティングして、あま〜く食べやすいお菓子に仕上げたもの)を販売。ここにくるお客さんは、基本的に駐在の日本人の奥様達。試食も準備してアンケートを実施し、日本人の嗜好や値段に関する感触を調査しました。



職場の同僚と作成中～



完成品！！



当日の売り込みの様子

【 フィエスタを侮ってはいけない 】

こちらではお祭りのことをFiesta(フィエスタ)といい、町ごとにそれぞれ異なった日程で行われます。集落ごとにもフィエスタはありますが、町のフィエスタはレベルが違って。。。話には聞いていたものの、食べる・食べる・食べる・食べる。。。1日中人の家を巡っては、ご飯を食べ歩きます。久しぶりに胃が食べ疲れしました。

そして、マタグ・オブ町ではフィエスタの1週間前から毎日夜中まで町の体育館がディスコに変身。フィリピン人のタフさには驚きます。今回だけでレチョン(豚の丸焼き)何匹見たかなあ。フィエスタ、本当に恐るべしです。





これが 1 軒だけじゃないんですよ 日本のお祭りみたいに出店がいっぱい

仮設の観覧車や賭博場が田んぼの中に

【 これぞ Filipino カルチャ〜 】

その③ おやつ時間は何よりも大切

おやつ文化“ミリエンダ”。これは絶対に欠かせないフィリピンの文化。毎日 2 回 10 時と 3 時頃、外からお菓子を売りに来る売り子さんたちが。

ミリエンダの為に、会議に参加している参加者も少ないはず。兎に角、フィリピン人はどんな時でもみんなでワイワイ食べ物シェアしてます。



その④ Facebook の更新が半端ない

すごいんです。フィリピンでの Facebook の普及率が。携帯見てな〜にしているのかな、と思うと大抵が F B (Facebook)。すぐどんな場所でも写真を撮っているかと思えば、それをその場でアップしていて、知らない間に自分の写真が投稿されていることなんか日常茶飯事。しかも、全然ポーズとか取ってない不意な瞬間のヤツ。なので、週末どこでなにしていたかなんて、直ぐにバレバレです。秘密ができないフィリピン

【 安部、町で 1 位になっちゃいました 】

私は水農に在る間の 4 年間、女子バスケ部の顧問を務めていましたが、わたしが素早く華麗に走り抜けている姿を想像できる人はいますでしょうか？。。。いませんよね。わたしは運動部に所属した経験も無ければ、体育の授業は、正直嫌いな生徒でした。しかし、フィリピンに来る前の訓練所生活で毎朝ランニングがあったことと、フィリピンではすごい量の油や砂糖、いかにも体に害がありそうなスナックを口にする機会が多かったことから、体を管理する必要性を肌で感じ、仕事終わりには毎日走る、という習慣がつかしました。

そんな甲斐あってか、、、なんと、、、1 月に行われた町のマラソン大会で、年齢別の部で 1 位を獲得してしまいましたぁぁぁあ〜！！！！自分でも驚き。いつものペースでただ走っていただけのつもりだったんですが。人は年齢に関係なく、気持ちと努力次第でなんとでもなるんですね。町のみんなも私が優勝したことで、この大会が国際的な大会になったと喜んでいました(というか、爆笑されました)。

今の自分からは想像できないようなことでも、環境を変えることで思考が変わり、チャレンジする勇気がもらえるんだなと改めて感じました。

